

ありがとうデビッド先生



平成20年8月から2年間、外国語指導助手（ALT）として、主に東秩父中学校で活躍されたデビッド・マイケル・ブタカボリ先生が7月末で退任し、アメリカに帰国しました。

本村では、平成17年8月から児童、生徒が外国語を身近なものとするために、外国語指導助手を受け入れています。デビッド先生は、生徒や先生との交流を積極的に図り、語学力向上と国際交流に貢献して

いただきました。子どもたちは、授業の時間だけでなく、給食や放課後、学校行事の中での語学習得など大きな成果が得られました。

いつかまた日本に来た時は、東秩父村にもぜひお越しいただき、子どもたちの成長を実感していただきたいと思います。デビッド先生、2年間本当にありがとうございました。

なお、2学期からは、新しくカール先生が着任します。児童、生徒の皆さんは、気軽に声をかけ、語学の勉強と国際感覚を身に付けてください。

かかしを作りました ～中学校～

7月8日、中学校体育館において、中学校生徒96人が学校ファームの一環として、かかし作りを行いました。

各班に分かれ、学校応援コーディネーターの関根高義さん（御堂）にご指導いただきながら、家から持参したTシャツなどを使い、かかしを完成させていきました。

出来上がったかかしは、東・西小学校5年生の児童が田植えをした田に8月上旬に設置します。



調査で出土した6点の鉄滓が注目されました。鉄滓は砂鉄な

られます。調査で出土した6点の鉄滓が注目されました。鉄滓は砂鉄な

6月21日、和紙の里ギャラリ
ーにおいて、「山里の製鉄関連
遺跡 大久保遺跡」をテーマに、
歴史探訪講座が開催されました。
この講座は、村教育委員会の
文化財担当である野村智主查を
講師に公民館事業として開催し、
18名の方が参加しました。

山里の製鉄関連遺跡…大久保遺跡…

どこの原料から鉄を作る際に排出される製錬滓と素材鉄から鎌や鍬などの製品を作るときにできる鍛冶滓に大別されますが、大久保遺跡から出土した鉄滓は肉眼的な特徴から鍛冶滓と推定されます。また、発掘調査期間中偶然に、雨天の翌日傾斜面に沿った流水跡に砂鉄が帯状にたまっているのが発見されたことから、大久保遺跡が鍛冶工房集落跡あるいは製鉄原料の砂鉄採取地に営まれた集落跡の可能性も考えられますが、いまだ結論を出すまでには至っていません。

しかし、大久保遺跡の位置する安戸の地は古代末期から中世にかけて活躍した大河原氏の本拠地でもあり、鉄の確保は武装化を進めるにおいても、あるいは経済基盤としても重要な意味をもちます。さらに、大河原氏がこの地に進出した背景の一つとして大久保遺跡周辺の鉄の確保があったとみることも可能ではないでしょうか。

また、講座の中では、出土した砂鉄や土器などに直接触れて参加者の皆さんは興味深そうに見入っていました。

7月3日、和紙の里あずま屋においてこけ玉作り教室（公民館講座）が行われ、18名の参加者がありました。

当日は、蒸し暑い日でしたが、参加者の方々は暑さを忘れ、こけ玉作りに熱中していました。こけ玉は2個ずつ作り、1個目はスタピーを使い予行練習、2個目は山もみじの枝を剪定しながら、初雪カズラを使い、趣きあるこけ玉が完成しました。

和やかな雰囲気の中、個性豊かな作品ができあがり、それぞれに作品を鑑賞して楽しんでいました。



こけ玉作り教室開催